

徳富蘇峰が観た三人の校祖
——福澤諭吉・大隈重信・新島襄——

目次

第一章 日本の近代教育のめざめ 2

文明開化と明六社の啓蒙思想 2

キリスト教解禁と精神文化への影響 6

岩倉使節団の役割と収獲 8

福澤諭吉の啓蒙思想と国体論 15

新島襄の自由教育と市民国家論 17

『西国立志編』の啓蒙的役割 21

キリスト教が教育文化に与えた影響 23

民主主義の原点としての社会的平等思想 27

第二章 高等教育はどのように始まったか 30

欧米の教育制度をモデルにした教育改革 30

明治初期の学制と高等教育 33

第三章 全体主義と政争に巻き込まれた三人の校祖 47

商法講習所の設立	38
札幌農学校の設立	42
私立大学の源流・独立不羈の三人の校祖	44

「明治一四年の政変」と帝国憲法の公布 47

「徴兵令」による学生減少に悩んだ新島襄 52

文部省の九鬼隆一との確執 55

福澤諭吉の「徴兵令」に対する対応 58

大隈重信を福澤諭吉の門下を支える 61

福澤の交詢社と大隈の政治活動との関係 64

「明治一四年の政変」に続く政府の干渉 67

第四章 福澤諭吉の慶應義塾と実学教育 69

福澤諭吉の思想底流と慶應義塾の創立 69

独立自尊と慶應義塾建学の精神 72

福澤諭吉の起業を支えた三つの手法	75
塾の経営と一体化した出版・翻訳事業	77
慶應義塾のめざした実学教育	79
福澤構想を実験・起業化した早矢仕有的 慶應義塾内に開業した衣服仕立局	86
近代経営に影響を与えた『帳合之法』	88

第五章 大隈重信の「学問の独立」と早稲田の進取の精神

アメリカ独立宣言が早稲田建学の動機	92
華々しい大隈重信の政治活動	95
「学問の独立」が東京専門学校創立の理念	98
大隈自身が建学の理想を語る	102
学問の独立と進取の精神	104
大隈重信の文明運動と教育論	107
大隈重信が新島襄の大学設立運動を支援	109
新島襄の弟子たちの早稲田での活躍	112

大学野球の創設と早慶戦 116

第六章 新島襄のめざした総合大学と同志社の良心教育 121

キリスト教主義の同志社を創立 121

新島襄の運命を左右した函館からの脱国 124

教育を通じて国家に奉仕する 129

民主主義の種をまいた新島襄 131

知育・徳育並行教育の総合大学 133

同志社の国際主義 137

外資に頼らない自主・自立が課題になる 139

新島はなぜ教会合同に反対したか 143

「自由・自治・自立」の人材を育てる 146

第七章 福澤諭吉と新島襄の共感と確執 149

福澤諭吉と新島襄はなぜ会わなかったか 149

国体論とキリスト教批判 153

第八章

ジャーナリスト・徳富蘇峰の転変と軌跡

173

徳富蘇峰の大局観とナショナリズム

173

『将来之日本』の発表と言論界へのデビュー

175

民友社による『国民之友』『国民新聞』の発行

177

平民主義と民友社のイデオロギー

179

蘇峰の政治思想の変節

180

国民新聞の変質と統合

183

揺れ動いた福澤諭吉の宗教観

156

福澤諭吉によるユニテリアンの庇護

161

福澤諭吉は多角事業、新島襄は教育専業

165

福澤諭吉と新島襄の男女平等論

167

権力主義への抵抗と平民主義

171

第九章 徳富蘇峰が観た三人の校祖 185

新島襄と「自責の杖」事件 185

新島襄と同志としての活動 187

民友社の片腕、湯浅治郎は同志社へ 191

在野精神の政治家・大隈重信を尊敬 194

教育家・文化人としての大隈重信 197

徳富蘇峰による福澤諭吉論 199

言論人として福澤諭吉が目標 202

師弟をつなぐ愛国心とナシヨナリズム 207

蘇峰の「新島襄観」のまとめ 212

エピソード「カタルパの木 新島襄と蘇峰の師弟愛」 215

おわりに 216

参考文献・図書

219

年譜

近代高等教育年譜	222
福澤諭吉の年譜	227
大隈重信の年譜	229
新島襄の年譜	232
徳富蘇峰の年譜	235